

会話と対話

先日、娘が祖母の家に泊まりに行くのを躊躇している。いつもは二つ返事で「行く！」と喜んで準備を始めるのだが…。

友だちとの約束を優先する年齢になったのか。見たいテレビがあるのか。たまにはお兄ちゃんと離れ、一人っ子を体験したくなかったのか。いろいろ考えてみたがどれもしっくりこない。

考えてもわからない私は、直接娘に尋ねてみることにした。すると前回祖母の家に泊まりに行った時に「度々泊まりに来たらお母さんが寂しがって泣いてるかも。」と言われたそう。

娘が他者理解ができる年齢になったことに驚くとともに、しっかり向き合って話をしようとして娘の方に体を向け、心を込めて伝えた。「お母さんは（あなたが）離れた場所においても頑張っていることを知っているし、体は離れていても心は繋がっているから一緒にいなくても寂しくなんかない。」と。その後、娘はニッコリ笑って今回も泊まりに行くと即答したのだ。

おしゃべりな娘（と私（笑））は普段からよく会話をしている。もちろん好きなことや苦手なことも知っている。それでもしっかり対話をしないと相手のことを間違えて理解してしまうことを今回改めて感じた。

これからも決めつけや押し付けではなく、親子以前の人と人としての繋がりを大事にして言葉を届けていこうと思う。そこにこそ対話が生まれるのではないだろうか。

あなたはこの一週間、お子さんと対話をしましたか？